

(別添2)

自己評価及び外部評価結果
作成日

令和3年6月18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2794100079		
法人名	有限会社 安里メディカルプロダクツ		
事業所名	グループホーム天神橋やすらぎの里		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪市北区菅栄町5-2		
自己評価作成日	令和3年6月18日	評価結果市町村受理日	令和3年9月21日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.osaka-kaigohoken-kohyou.jp
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エイジコンサーン・ジャパン
所在地	大阪市住之江区南港北2-1-10 ATC ITM棟9階
訪問調査日	令和3年7月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の前には公園があり、天神橋筋商店街やスーパーなども近くにあり、コロナの影響で外出自粛をしていますが、自粛前は毎日散歩や買い物へ出かけたりと日課にしており、楽しみの一つでした。自粛をしている現在は、できる事はご利用者さまにお願いし、炊事、食器洗い、食器拭き、洗濯、掃除、などを一緒にいき、役割分担を作り、生活にメリハリを付けて過ごして頂いております。また、行事ごとに絵や折り紙を製作したり、おやつレクを行い一緒にお菓子作りなどを行っています。
主治医との連携も密に図っており、訪問看護が4回/週に入っており、相談・報告しやすい環境作りを行い、ご利用者様が安心して過ごせるよう、努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

天神橋やすらぎの里は全18名の入居者を3ユニットに分割し、6名ずつの単位で生活支援を実践しているグループホームである。少人数で1ユニットを組めるメリットは大きく入居者一人ひとりに対する細やかな接遇が可能になっている。家族との関係も極めて良好である事はアンケート調査で確認されている。現在はコロナ渦中である為に外出は制限されてはいるものの、普段の外出支援としては施設の前が児童公園でもある事からよく散歩したり、また5分もかからない所に福祉会館があり、館内の「ふれあい喫茶」では歓談も楽しめるように図られていた。このような情勢の時でも入居者同士の交流に限っては自由であり、2~4階にまたがっている3ユニットの中を自由に往き来できる事で開放感を味わっている。入居者の健康管理では協力病院が5、6分の所にある事から緊急な場合も心丈夫であり、また、訪問看護師の健康診断も月4回を数えている。職員の福祉支援に対する向上心も強く、定期的に勉強会を開いてスキルアップに繋げている。

ホーム名: グループホーム天神橋やすらぎの里 2F親和						
自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を張り出しており、出退勤時だけでなくフロアの出入り時に確認できるようにしている。入社時や勉強会では確認するようにしている。	理念の主旨は地域との共存であり各階のユニット入口に掲示されている。ユニットにはそれぞれの行動指針も連記されている。入居者の尊厳の確保、職員の相互理解、地域への貢献を目標とさせている。職員はこれを共有し実践に務めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で現在は行っていないが、それ以前は外出はほぼ毎日しており、地域のイベントにも参加していた。自治会にも加入している。	地域との交流を図るために自治会に加入し祭事に参加したり、老人会のふれあい喫茶を利用させてもらったりしていた。また、自主的に公園の清掃活動もしている。現在は厳しいコロナ渦の状況下にあるので、人的交流は中断も余儀なくされている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々がご家族の相談などで来苑する機会がある。現在は電話相談に乗っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の開催を行っており、ご家族や地域の方々などに意見を頂いている。また、スタッフにも共有できるように申し送り時に報告している。現在は新型コロナウイルスの影響で文書会議にしている。	従来からの参加者である包括職員、民生委員、自治会長、家族代表には内部情報報告や提案などを文書にして交換しあい意見や提案も求めている。包括支援センターには会議内容を報告している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	疑問点などは随時連絡するとともに、日々の困難事例などはGH連絡会などを利用し報告・相談を行っている。	施設内で対応が難しい事案や支援上の相談についてのアドバイスを求めたりする時もある。最近ではコロナ感染防止対策のメールを受けるなどされている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	勉強会を定期的に行っており、不参加者には資料を配布するなどし、全員が意識できるよう取り組んでいる。また施設内は事由に行き来できる環境作りをスタッフ同士連携を取り、行っている。	身体拘束防止マニュアル、虐待防止マニュアルは整備されており職員は常に閲覧できるようになっている。また、外部研修(二ヶ月に一回)、内部研修(二ヶ月に一回)を受講させている。ベッド柵は2点柵までを限度とし、拘束とされる3点柵以上は使用していない。入居者のエレベーターの使用は職員の遠方からの見守りの下で自由に昇降できる。		
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所などでの虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会を定期的に行っており、不参加者には資料を配布するなどし、全員が意識できるよう取り組んでいる。また管理者が積極的に現場に入り日々のケアを確認している。			

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>勉強会を定期的開催するとともに、不参加者には資料を配布するなどし、全員が学べるようにしている。また必要な方や相談があった場合には各関係機関に取り次ぐよう支援できる環境にある。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時には十分な説明を時間を設けている。また、来苑時は話しやすい雰囲気作りにも努めている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>常に風通しの良い環境を作れるよう、管理者が日中現場を見に行くようにしている。コロナ禍前は行事などに家族が参加できる機会を設けていた。現在は家族が来苑した際に、管理者だけでなく職員からも話を聞ける機会を設け、ご利用者のご様子や声を伝えている。</p>	<p>来訪された家族は管理者と面談をされ、また職員とも会話されて、その中で意見を話されている。内容は生活記録に書かれて共有化され、サービス担当者会議で話し合わせ協力可能な形で反映に努めている。</p>	
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>勉強会で発言できる機会を設けると同時に、管理者は勤務時にスタッフに声をかけるよう努めている。また代表者も管理者だけでなくスタッフの声を聴けるよう施設に訪れる機会を多く設けている。</p>	<p>職員は勉強会でよく意見を述べ合われている。サービス担当者会議や管理者とのミーティング時にもよく話されている。施設の代表者や管理者は日々の支援活動をしている職員の意見や提案を運営に反映出来るように努めている。</p>	
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>非常勤からの常勤への転換や時給の見直しなど随時行っている。また、資格支援も行っており、昨年2名資格取得の実績がある。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の研修に参加、また外部研修などの参加を積極的に支援している。その際には、業務内で参加できるよう配慮している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>管理者を中心に交流会や連絡会、医師会の勉強会などに参加交流をし深め、施設サービスの見直し・向上に繋げている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前のアセスメントを十分に行い、その際には本人が話しやすい雰囲気作りに努めている。また、情報は全スタッフで共有している。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>相談・申込時には、十分な時間を取り傾聴することで安心して頂けるよう努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>十分な聞き取りを行い、ニーズにあったサービスを提案・提供できるよう、必要であれば法人内またはおグループ内の専門職よりサービス案内などを行っている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家事などの中でスタッフも教わることも多く、生活を共にする家族のような関係作りに努めている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>来苑時などには話しやすい雰囲気作りを行い、生活の様子を伝えるとともに些細な事でも連絡するなど日頃より積極的にコミュニケーションを図っている。毎月手書きのお手紙を送付している。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>コロナ前は近隣の方が多く、散歩などで馴染みの道を通り、知り合いとコミュニケーションを図っていた。現在は職員が間に入り伝言を伝えたり、電話にてコミュニケーションを図ったりしている。</p>	<p>現在はコロナ渦中であり、外出や人との接見すらも出来ない状態である。コロナ渦以前は商店街の散策や、家族との面談や遠出などを楽しんでいた。コロナ収束後は支援活動の再開を予定されている。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>認知症の進行で困難な方もいるが、スタッフが間に入ることで利用者同士の関りを増やしている。日中はほとんどフロアで過ごして頂くよう努めている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>ご退去になった方には写真をDVDにしお渡ししている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より本人の言葉や表情などを記録に残すことで思いを把握できるよう努めている。	寡黙な入居者の態度や不快な表情については判断が困難な場合もある。生活記録に記入された内容は、その時の思いや意向を思索しようとする場合にも利用され、入居者の心意を正確に把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居時の聞き取りだけでなく、日々のコミュニケーションで聞きたいことは記録に残し共有している。またご家族の面会（電話連絡）時などにも聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録をしっかりと記入し、スタッフ全員が変化や現状を把握できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見を計画作成者だけでなく、管理やフロアスタッフ、主治医や訪問看護などで話し合い、より良いケアに繋げられるよう行っている。	計画作成者は健康状態やADLを主体としたモニタリングを実施され管理者や担当職員、看護師、主治医のアドバイスを取り入れて、本人家族の意見を考慮されて完成させている。介護計画期間は一年とされている。体調異変があればその都度、関係者と話し合われて、適切な見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は詳細に記入するとともに、スタッフは出勤前には記録に目を通している。情報共有を行い、必要であればその都度、管理者に相談しケアの見直しを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内だけに留まらず、家族やグループ内でのニーズに対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍前はふれあい喫茶や地域の行事に参加していた。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方が施設主治医が以前よりかかりつけ医であったため、継続している。また、入居時には確認を行い、施設主治医に変更するか話し合いを行っている。	施設入所前からのかかりつけ医を本人や家族が希望すれば、継続してその医者の診察を受けることができる。診断書は協力医に伝達され、管理者や職員にも閲覧できるようにファイルされ、入居者の健康管理に支障が起らないようにされている。	

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>4回/週の訪問看護があり、その都度各フロアで申し送りを行い、情報共有を行っている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院中も本人・家族とは密に連絡をとっている。また、病院とも施設のための情報交換を行うのではなく、主治医からも病院と直接情報交換を実施しているため、退院後も安心して生活できるよう関係作りを行っている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に説明を行っている。また、終末期においては、その都度家族・主治医・訪問看護などを交えて話し、チームで支援できるよう努めている。</p>	<p>入所時に、施設が行なう事のできる基本的な介護支援方針が説明されている。主治医の判断で重度化に向かい始めたときから、再度、施設側は介護を通して出来る事を説明され、家族もまた要望を話されて心の整理がなされている。その後、家族の納得のうえで終末期へ向けた支援方針が決定されている。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>勉強会を定期的に参加するとともに、不参加者には資料を配布するなどし、全員が意識できるよう取り組んでいる。また、管理者や主治医には24時間の連絡体制にある。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練を2回/年行っており、避難場所においては張り出しをし、スタッフ全員が把握できるようにしている。また、地域の方々と連携を持てるよう日頃よりコミュニケーションを図っている。</p>	<p>年2回の避難訓練を実施しており内一回は夜間訓練を想定している。入居者は口を押さえてベランダまで移動し消防に救出してもらう手筈である。地元の協力も依頼している。非常災害マニュアルは策定されておりいつでも見れるようにされている。</p>	<p>災害発生時には想定外の混乱が起きる可能性がある。不測の事態に対するいろいろなケースを考察され対処方法を話し合われるよう望まれます。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>人格やプライバシーを損なわないよう配慮している。</p>	<p>プライバシー保護マニュアル・接遇マニュアルなどで基本的な接し方を習得されている。名前の呼称については本人の希望に合っている。特にトイレ誘導には気ばりし入居者の尊厳を傷つけないよう図っている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日頃よりコミュニケーションを大事にしており、想いを伝えやすい関係作りを行うとともに、選択できるような声かけを行うよう努めている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>定員が通常のGHより少ないため、関わる時間が多くあり、それぞれのペースで過ごせるよう配慮している。可能な限り希望に添えるよう努めている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>起床時や入浴時には、スタッフと着替えを選ぶようにしている。また、カットなども訪問ではなく店を利用している。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>盛り付けなど可能な限りスタッフと一緒にしている。また、選択メニューや行事などには、アンケートを取っているだけでなく、その都度メニューのアレンジなども一緒にしている。</p>	<p>食材は専門業者に依頼して運んでもらっており調理は施設で行っている。盛り付けは個人の好みに合している。料理に参加する楽しさを味わってもらう為に、玉葱むきや野菜の切り刻みを手伝ってもらったり盛り付けの一部をしてもらったりもしている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>主治医の指示のもと、必要な方に対しては水分チェックや計測などを行っている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアを実施している。また、訪問歯科と連携しケアのアドバイスももらっている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個別に排泄パターンを把握し、必要に応じて声かけを行っている。</p>	<p>原則的に排泄チェック表に従って声かけをするようにしている。時間外にトイレに行かれる入居者がいたら出来る限り見守りするようにしている。中にはリハビリパンツから普通のパンツに変えたら自分でトイレに行かれた方もいる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分補給や体操・歩行などに努めるとともに、毎朝ヨーグルトの提供をしている。また、訪問看護と連携をとり腹部マッサージやホットパックなども必要に応じて行っている。センナ茶の提供も行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>週2回以上、お好きなタイミングで入れるよう声かけを行っている。</p>	<p>入浴は洗髪を含めて一回30分～40分位、午後を主に入浴時間に当てている。本人が望めば午前中も可である。入浴を拒む方がいればトイレの出た所でスツと浴室へ一緒にいきそのまま風呂に入ってもらったりしている。年に何回かは入浴剤や季節湯を利用する事もある。</p>	

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>就寝・起床はそれぞれのペースで行っている。21頃まではフロアでTVを見たりして過ごす方もいる。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬情をファイリングしており、いつでも確認できる。また、新しい薬が出た場合には申し送りにて周知している。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>コロナ禍前は散歩や買い物、外食や喫茶店などに行き気分転換をしていた。施設内では編み物や縫物、ご利用者により生活歴に応じた楽しみを継続できるよう支援している。</p>		
49 18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>コロナ禍前まではほぼ毎日散歩や買い物と出掛けていた。喫茶店やバスツアー(年2回)にも参加していた。</p>	<p>現在はコロナ渦中の為、外出支援は出来ない状態になっている。桜の季節に限っては施設前の公園の桜を窓から眺めることができ入所時に喜ばれている。コロナ渦前は日常散歩、ふれあい喫茶の集い、商店街の買い物、協力医主催のバスツアー参加などされていた。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己にて管理している方はいないが、希望時には買い物をしている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>手紙を書いたり電話をする方はいない。</p>		
52 19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に応じた装飾を行うようにしている。また、季節や時間に応じた空調や湿度管理を行っている。</p>	<p>共用空間の室温は年間を通じて25度～27度に温度調整され凌ぎやすい。床や机は木目調で目に優しい。壁に展示されている作品は七夕のように季節感があり情緒的である。掃除は毎日実施され清潔で気持ちよい。入居者は夜9時ぐらいまで寛ぐ事ができる。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>必要に応じてイスやテーブルを移動するなど配慮している。ソファやキッチンカウンター横で過ごす方が多い。</p>		
54 20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>全ての方が以前より使用していたものを持参している。写真や手紙などを家族が持参し、安心できる空間作りに努めている。</p>	<p>個人の生活の場である事から使い慣れた馴染みの家具や、家族の写真、衣類、置物などが置かれ生活感のある部屋作りがなされている。職員による掃除は毎日おこなわれシーツ交換も毎週実施されている。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリーになっている。トイレにはわかりやすくトイレの張り紙をしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目:9,10,19)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

ホーム名: グループホーム天神橋やすらぎの里 3F高話

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念を張り出しており、出退勤時だけでなくフロアの出入り時に確認できるようにしている。入社時や勉強会では確認するようにしている。</p>			
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>新型コロナウイルスの影響で現在は行えていないが、それ以前は外出はほぼ毎日しており、地域のイベントにも参加していた。自治会にも加入している。</p>			
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域の方々がご家族の相談などで来苑する機会がある。現在は電話相談に乗っている。</p>			
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1度の開催を行って、ご家族や地域の方々などに意見を頂いている。また、スタッフにも共有できるよう申し送り時に報告している。現在はコロナウイルスの影響で文書会議にしている。</p>			
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>疑問点などは随時連絡するとともに、日々の困難事例などはGH連絡会などを利用し報告・相談を行っている。</p>			
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>勉強会を定期的に行うとともに、不参加者には資料を配布するなどし、全員が意識できるよう取り組んでいる。また施設内は事由に行き来できる環境作りをスタッフ同士連携を取り、行っている。</p>			
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所などでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会を定期的に行うとともに、不参加者には資料を配布するなどし、全員が意識できるよう取り組んでいる。また管理者が積極的に現場に入り日々のケアを確認している。</p>			

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>勉強会を定期的開催するとともに、不参加者には資料を配布するなどし、全員が学べるようにしている。また必要な方や相談があった場合には各関係機関に取り次ぐよう支援できる環境にある。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時には十分な説明を時間を設けている。また、来苑時は話しやすい雰囲気作りに努めている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>常に風通しの良い環境を作れるよう、管理者が日中現場を見に行くようにしている。コロナ禍前は行事などに家族が参加できる機会を設けていた。現在は家族が来苑した際に、管理者だけでなく職員からも話を聞ける機会を設け、ご利用者のご様子や声を伝えている。</p>		
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>勉強会で発言できる機会を設けると同時に、管理者は勤務時にスタッフに声をかけるよう努めている。また代表者も管理者だけでなくスタッフの声を聴けるよう施設に訪れる機会を多く設けている。</p>		
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>非常勤からの常勤への転換や時給の見直しなど随時行っている。また、資格支援も行っており、昨年2名資格取得の実績がある。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の研修に参加、また外部研修などの参加を積極的に支援している。その際には、業務内で参加できるよう配慮している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>管理者を中心に交流会や連絡会、医師会の勉強会などに参加交流をし深め、施設サービスの見直し・向上に繋げている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前のアセスメントを十分に行い、その際には本人が話しやすい雰囲気作りに努めている。また、情報は全スタッフで共有している。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>相談・申込時には、十分な時間を取り傾聴することで安心して頂けるよう努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>十分な聞き取りを行い、ニーズにあったサービスを提案・提供できるよう、必要であれば法人内またはおグループ内の専門職よりサービス案内などを行っている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家事などの中でスタッフも教わることも多く、生活を共にする家族のような関係作りに努めている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>来苑時などには話しやすい雰囲気作りを行い、生活の様子を伝えるとともに些細な事でも連絡するなど日頃より積極的にコミュニケーションを図っている。毎月手書きのお手紙を送付している。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>コロナ前は近隣の方が多く、散歩などで馴染みの道を通り、知り合いとコミュニケーションを図っていた。現在は職員が間に入り伝言を伝えたり、電話にてコミュニケーションを図ったりしている。</p>		
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>認知症の進行で困難な方もいるが、スタッフが間に入ることで利用者同士の関りを増やしている。日中はほとんどフロアで過ごして頂くよう努めている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退去後も時々、ご家族と手紙や電話連絡を行っている。ご退去になった方には写真をお渡ししている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日頃より本人の言葉や表情などを記録に残すことで思いを把握できるよう努めている。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>入居時の聞き取りだけでなく、日々のコミュニケーションで聞きたいことは記録に残し共有している。またご家族の面会（電話連絡）時などにも聞き取りを行っている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>日々の記録をしっかりと記入し、スタッフ全員が変化や現状を把握できるよう努めている。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族の意見を計画作成者だけでなく、管理やフロアスタッフ、主治医や訪問看護などで話し合い、より良いケアに繋げられるよう行っている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>記録は詳細に記入するとともに、スタッフは出勤前には記録に目を通している。情報共有を行い、必要であればその都度、管理者に相談しケアの見直しを実施している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>施設内だけに留まらず、家族やグループ内でのニーズに対応できるよう努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>コロナ禍前はふれあい喫茶や地域の行事に参加していた。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ほとんどの方が施設主治医が以前よりかかりつけ医であったため、継続している。また、入居時には確認を行い、施設主治医に変更するか話し合いを行っている。</p>		

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>4回/週の訪問看護があり、その都度各フロアで申し送りを行い、情報共有を行っている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院中も本人・家族とは密に連絡をとっている。また、病院とも施設のための情報交換を行うのではなく、主治医からも病院と直接情報交換を実施しているため、退院後も安心して生活できるよう関係作りを行っている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に説明を行っている。また、終末期においては、その都度家族・主治医・訪問看護などを交えて話し、チームで支援できるよう努めている。</p>		
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>勉強会を定期的に参加するとともに、不参加者には資料を配布するなどし、全員が意識できるよう取り組んでいる。また、管理者や主治医には24時間の連絡体制にある。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練を2回/年行っており、避難場所においては張り出しをし、スタッフ全員が把握できるようにしている。また、地域の方々とも連携を持てるよう日頃よりコミュニケーションを図っている。</p>		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格やプライバシーを損なわないよう配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃よりコミュニケーションを大事にしており、想いを伝えやすい関係作りを行うとともに、選択できるような声かけを行うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	定員が通常のGHより少ないため、関わる時間が多くあり、それぞれのペースで過ごせるよう配慮している。可能な限り希望に添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時には、スタッフと着替えを選ぶようにしている。また、カットなども訪問ではなく店を利用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや配膳など可能な限りスタッフと一緒にしている。食器拭きは利用者主体で行っている。また、選択メニューや行事などには、アンケートを取っているだけでなく、その都度メニューのアレンジなども一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	主治医の指示のもと、必要な方に対しては水分チェックや計測などを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。また、訪問歯科と連携しケアのアドバイスをもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個別に排泄パターンを把握し、必要に応じて声かけを行っている。オムツからリハビリパンツへ、リハビリパンツから布パンツへと変更した方もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や体操・歩行などに努めるとともに、毎朝ヨーグルトの提供をしている。また、訪問看護と連携をとり腹部マッサージやホットパックなども必要に応じて行っている。センナ茶の提供も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回以上、好きなタイミングで入れるよう声かけを行っている。		

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>就寝・起床はそれぞれのペースで行っている。21頃まではTVを見たりしてフロアで過ごす方が多い。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬情をファイリングしており、いつでも確認できる。また、新しい薬が出た場合には申し送りにて周知している。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>コロナ禍前は散歩や買い物、外食や喫茶店などに行き気分転換をしていた。施設内では編み物や縫物、ご利用者により生活歴に応じた楽しみを継続できるよう支援している。</p>		
49	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>コロナ禍前まではほぼ毎日散歩や買い物と出掛けていた。喫茶店やバスツアー(年2回)にも参加していた。</p>		
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己にて管理している方はいないが、希望時には買い物をしている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話を持っている方がおり、いつでも連絡できるよう支援している。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に応じた装飾を行うようにしている。また、季節や時間に応じた空調や湿度管理を行っている。</p>		
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>必要に応じてイスやテーブルを移動するなど配慮している。ソファやキッチンカウンター横で過ごす方が多い。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>全ての方が以前より使用していたものを持参している。写真や手紙などを家族が持参し、安心できる空間作りに努めている。</p>		
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリーになっている。トイレにはわかりやすくトイレの張り紙をしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目:9,10,19)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

ホーム名: グループホーム天神橋やすらぎの里 4F大輪

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を張り出しており、出退勤時だけでなくフロアの出入り時に確認できるようにしている。入社時や勉強会では確認するようにしている。			
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で現在は行えていないが、それ以前は外出はほぼ毎日しており、地域のイベントにも参加していた。自治会にも加入している。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々がご家族の相談などで来苑する機会がある。現在は電話相談に乗っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の開催を行って、ご家族や地域の方々などに意見を頂いている。また、スタッフにも共有できるよう申し送り時に報告している。現在はコロナウイルスの影響で文書会議にしている。			
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	疑問点などは随時連絡するとともに、日々の困難事例などはGH連絡会などを利用し報告・相談を行っている。			
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	勉強会を定期的に行うとともに、不参加者には資料を配布するなどし、全員が意識できるよう取り組んでいる。また施設内は事由に行き来できる環境作りをスタッフ同士連携を取り、行っている。			
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所などでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を定期的に行うとともに、不参加者には資料を配布するなどし、全員が意識できるよう積極的に現場に入り日々のケアを確認している。			

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>勉強会を定期的開催するとともに、不参加者には資料を配布するなどし、全員が学べるようにしている。また必要な方や相談があった場合には各関係機関に取り次ぐよう支援できる環境にある。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時には十分な説明を時間を設けている。また、来苑時は話しやすい雰囲気作りに努めている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>常に風通しの良い環境を作れるよう、管理者が日中現場を見に行くようにしている。コロナ禍前は行事などに家族が参加できる機会を設けていた。現在は家族が来苑した際に、管理者だけでなく職員からも話を聞ける機会を設け、ご利用者のご様子や声を伝えている。</p>		
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>勉強会で発言できる機会を設けると同時に、管理者は勤務時にスタッフに声をかけるよう努めている。また代表者も管理者だけでなくスタッフの声を聴けるよう施設に訪れる機会を多く設けている。</p>		
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>非常勤からの常勤への転換や時給の見直しなど随時行っている。また、資格支援も行っており、昨年2名資格取得の実績がある。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の研修に参加、また外部研修などの参加を積極的に支援している。その際には、業務内で参加できるよう配慮している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>管理者を中心に交流会や連絡会、医師会の勉強会などに参加交流をし深め、施設サービスの見直し・向上に繋げている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前のアセスメントを十分に行い、その際には本人が話しやすい雰囲気作りに努めている。また、情報は全スタッフで共有している。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>相談・申込時には、十分な時間を取り傾聴することで安心して頂けるよう努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>十分な聞き取りを行い、ニーズにあったサービスを提案・提供できるよう、必要であれば法人内またはおグループ内の専門職よりサービス案内などを行っている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家事などの中でスタッフも教わることも多く、生活を共にする家族のような関係作りに努めている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>来苑時などには話しやすい雰囲気作りを行い、生活の様子を伝えるとともに些細な事でも連絡するなど日頃より積極的にコミュニケーションを図っている。毎月、手書きのお手紙を送付している。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>コロナ前は近隣の方が多く、散歩などで馴染みの道を通り、知り合いとコミュニケーションを図っていた。現在は職員が間に入り伝言を伝えたり、電話にてコミュニケーションを図ったりしている。</p>		
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>認知症の進行で困難な方もいるが、スタッフが間に入ることで利用者同士の関りを増やしている。日中はほとんどフロアで過ごして頂くよう努めている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退去後もご家族が施設に訪れたりしている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より本人の言葉や表情などを記録に残すことで思いを把握できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居時の聞き取りだけでなく、日々のコミュニケーションで聞きたいことは記録に残し共有している。またご家族の面会(電話連絡)時などにも聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録をしっかりと記入し、スタッフ全員が変化や現状を把握できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見を計画作成者だけでなく、管理やフロアスタッフ、主治医や訪問看護などで話し合い、より良いケアに繋げられるよう行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は詳細に記入するとともに、スタッフは出勤前には記録に目を通している。情報共有を行い、必要であればその都度、管理者に相談しケアの見直しを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内だけに留まらず、家族やグループ内でのニーズに対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍前はふれあい喫茶や地域の行事に参加していた。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に確認を行い、施設主治医に変更するか話し合いを行っている。専門医の受診をしている方もいる。		

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>4回/週の訪問看護があり、その都度各フロアで申し送りを行い、情報共有を行っている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院中も本人・家族とは密に連絡をとっている。また、病院とも施設のための情報交換を行うのではなく、主治医からも病院と直接情報交換を実施しているため、退院後も安心して生活できるよう関係作りを行っている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に説明を行っている。また、終末期においては、その都度家族・主治医・訪問看護などを交えて話し、チームで支援できるよう努めている。</p>		
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>勉強会を定期的に参加するとともに、不参加者には資料を配布するなどし、全員が意識できるよう取り組んでいる。また、管理者や主治医には24時間の連絡体制にある。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練を2回/年行っており、避難場所においては張り出しをし、スタッフ全員が把握できるようにしている。また、地域の方々と連携を持てるよう日頃よりコミュニケーションを図っている。</p>		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>人格やプライバシーを損なわないよう配慮している。</p>		
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日頃よりコミュニケーションを大事にしており、想いを伝えやすい関係作りを行うとともに、選択できるような声かけを行うよう努めている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>定員が通常のGHより少ないため、関わる時間が多くあり、それぞれのペースで過ごせるよう配慮している。可能な限り希望に添えるよう努めている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>起床時や入浴時には、スタッフと着替えを選ぶようにしている。また、カットなども訪問ではなく店を利用している。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理や盛り付け、配膳など可能な限りスタッフと一緒にしている。洗い物は利用者主体で行っている。また、選択メニューや行事などには、アンケートを取っているだけでなく、その都度メニューのアレンジなども一緒にしている。</p>		
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>主治医の指示のもと、必要な方に対しては水分チェックや計測などを行っている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアを実施している。また、訪問歯科と連携しケアのアドバイスをもらっている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個別に排泄パターンを把握し、必要に応じて声かけを行っている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分補給や体操・歩行などに努めるとともに、毎朝ヨーグルトの提供をしている。また、訪問看護と連携をとり腹部マッサージやホットパックなども必要に応じて行っている。センナ茶の提供も行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>週2回以上、お好きなタイミングで入れるよう声かけを行っている。</p>		

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>就寝・起床はそれぞれのペースで行っている。21頃まではフロアで過ごされたり、利用者同士の居室で話をしたりして過ごされている。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬情をファイリングしており、いつでも確認できる。また、新しい薬が出た場合には申し送りにて周知している。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>コロナ禍前は散歩や買い物、外食や喫茶店などに行き気分転換をしていた。施設内では編み物や縫物、ご利用者により生活歴に応じた楽しみを継続できるよう支援している。</p>		
49	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>コロナ禍前まではほぼ毎日散歩や買い物と出掛けていた。喫茶店やバスツアー(年2回)にも参加していた。</p>		
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己にて管理している方もおり、希望時には買い物をしている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>手紙を書く方、電話のやり取りをする方それぞれ1名おり、継続できるよう支援している。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に応じた装飾を行うようにしている。また、季節や時間に応じた空調や湿度管理を行っている。</p>		
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>必要に応じてイスやテーブルを移動するなど配慮している。ソファやキッチンカウンター横で過ごす方が多い。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>全ての方が以前より使用していたものを持参している。写真や手紙などを家族が持参し、安心できる空間作りに努めている。</p>		
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリーになっている。トイレにはわかりやすくトイレの張り紙をしており、今トイレを使っているか空いているかの張り紙もしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目:9,10,19)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない